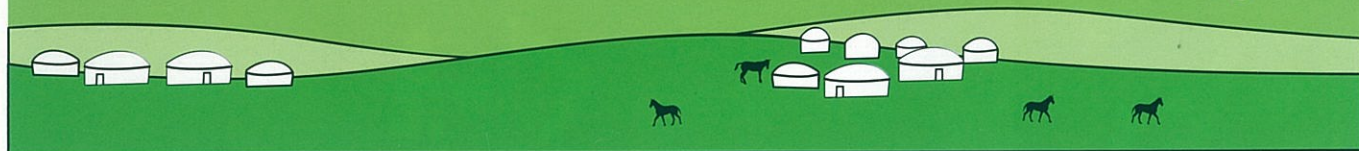


Newsletter

vol.21

ぴあ・かもみーる日記④ ●
 パオの7周年イベントリポート ●
 教えて!ばおぞうさん ●



パオの
 現いま

「ぴあ・かもみーる」日記④

私は、弁護士になって3年目になります。縁あって、昨年の秋から、ぴあ・かもみーるの子どもたちと関わるようになりました。

子どもたちには、必ず男女のパートナー弁護士がつきます。このパートナー弁護士の役割とは一体何なのだろうか、ということが、私が最初に感じた疑問でした。他のパートナー弁護士を見ていると、子どもたちとご飯に行ったり、遊びに連れ出したりしている様子。弁護士じゃなくてもいいんじゃないかなあ?と感じつつ、きっと他に弁護士でなければできないことがいっぱいあって、ご飯はそのおまけなのかなあとも思ったりしていました。

昨年の秋、Aさんという16歳の女の子のパートナー弁護士となりました。私は、何をしたらいいのか分からず、一緒にパートナー弁護士になった大先輩のお二人の後ろから付いて行ってAさんと一緒にご飯をご馳走になったり、言われたことをやったりするくらいしかできませんでした。子どもたちへの接し方はスタッフさんの方がずっと慣れていらっしゃるし、ここぞという時には経験豊富な男性のパートナー弁護士が対応してくれました。Aさんにとって私はたまに来るよく分からない人なのだろうと、どうにもやりきれない思いで過ごしていました。

その後、Aさんは、短期間でぴあ・かもみーるを巣立っていきました。私は、結局パートナー弁護士としての自分の役割を見いだせないまま。Aさんにとって、私がどういう存在だったのか今でもわかりません。その後、Aさんからの連絡も途絶えてしまい、今は彼女の幸せを願うことしかできずにいます。

今年の5月からは、Bさんのパートナー弁護士になりました。そのころ、私の悩みを知ってか知らずか、先輩のT弁護士が、「別に友達になればいいじゃん」と。その言葉を聞いて、自分の役割なんて偉そうなことは考えずできることをやればいいと思えるようになりました。

Bさんは、18歳のとても可愛い女の子です。Bさんも、とてもつらい思いをして、必死に頑張ってここにたどり着きました。様々な事情があり、今は一人で外出することを控えてもらっています。外出できないことはストレスフルだと思いますが、今は少し我慢をしてもらって、少しずつ自立に向けて環境を整えてあげられたらいいなと思います。

Bさんは、ぴあ・かもみーるに来てから自分に課した課題(子どもたちは「ミッション」と呼んでいます)として、お菓子作りや編み物を行っています。一生懸命本を見ながら試行錯誤して、今では、味も見た目も、まるでケーキ屋さんのケーキのようです。私が行く度に振る舞ってくれるので、毎回わくわくしています。

友達のようにとはなかなかいきませんが、それでも折をみて、回転寿司に行ったり、ファミリーレストランに行ったりして普通に過ごしています。特に、Bさんはカラオケが大好きなのでカラオケのときにはとても盛り上がりました。

夜になると、Bさんから「Bですう」と可愛い声で電話がかかってくる。ぴあ・かもみーるでの生活やこれまで抱えてきたたくさんの思いを少しずつ少しずつ話してくれます。長いときには1時間くらい話をすることもあります。特に何かアドバイスするわけでもありませんが、私との電話が、少しでも彼女の気持ちを落ち着けてあげられるといいなと思っています。

Bさんは、ぴあ・かもみーるに来てから3ヶ月以上たち、これからは、ボランティア活動に挑戦したりしながら、少しずつ自立への道を進んでいく予定です。自立できるといいなと思う反面、あまり無理をしないでゆっくりしてほしいなと思っています。

Bさんとの関わりはこれからも長く続きそうです。Bさんが幸せな人生を歩めるように、微力ながら、お手伝いをしていきたいと思っています。(K)